

井上雅彦先生講演会終了アンケート（結果）

Q. ご所属についてお伺いします。

特別支援学校教職員	12名
福祉関係職員（児童福祉サービス以外）	11名
医療関係者	10名
福祉関係職員（児童福祉サービス）	7名
高等学校教職員	6名
行政関係者	5名
小学校教職員	4名
スクールカウンセラー	2名
中学校教職員	1名
その他	11名

Q. 今回の講演会を視聴された理由をお伺いします。

発達障害に関心があるから	36名
不登校支援に関心があるから	24名
不登校の児童生徒の支援を行っているから	13名
講演会の案内がきたから	5名
聴きたい講師だから	4名
その他	2名

Q. 今回の講演会はいかがでしたか。

参考になった	52名
やや参考になった	17名
どちらでもない	1名

Q. 今回の講演会のご感想をお聞かせください。

- ・不登校の予防と支援について、多くの資料を使ったお話しで、わかりやすかったです。(他 10名)
- ・発達障害の不登校がある子供の関わりについてとても勉強になりました。(他 8名)
- ・課題をスモールステップで作っていく。引き継ぎをきちんとしておかないと元通りになってしまうということが印象に残りました。(他 4名)
- ・不登校支援は、担任だけ、クラスだけで取り組むものではなく、自治体全体でシステムを作って連携しながら取り組むというお話が、常々思っていることだったので非常に共感いたしました。未だ学校現場では一人一人の担任の技量による部分が大きいので、早く建前ではない実行可能なシステムを構築してほしい。(他 3名)
- ・学校という場所にこだわらず、教育を受けられる環境を多岐にわたり拡げていく事が、今後の子供達には、大変重要となることを、再確認できました。(他 1名)
- ・行動契約書の話が具体的で大変参考になった。不登校の児童生徒だけでなく、様々な場面でも活用できそうな気がした。(他 1名)
- ・クラス全体のユニバーサルな支援や、学校教育の中での配慮のポイントは、自分の障害者支援にもとても参考になる内容でした。登校しやすい環境作りで、安心な場所で、安心な人と、安心な時間、安心な活動ということ、教室に入ることを絶対目標にするのではなく、別室でオンラインでもいいのではという先生のお考えは、とても共感いたしました。(他 1名)
- ・ICTの利用は今後の教育の機会均等に役割を果たせるもので、不登校に子どもに限らず誰もが選択できるようにしていくことが大事であると思います。(他 1名)
- ・教師の意識を変えること、管理職がリーダーシップをとって動くこと(地域連携を含めて)の啓発が必要だと感じています。(他 1名)
- ・ネットでの講演は臨場感には欠けますが、都合の良い時間に受講することや、聞き洩らした内容をもう一度確認することができ、有意義なものとなりました。(他 1名)
- ・不登校のきっかけで、学校側と本人との違いがあることがわかり良かった。
- ・すべての教師が特性等を理解して、さらに学校内や地域で共有することが大切であると知ることができた。自身の職場においても、同様に強く意識して実践していきたい。
- ・早期対応のマニュアルや児童生徒理解・支援シート等、すぐに使えるものを教えていただきました。
- ・引きこもりになる最も関連する精神疾患の一位が発達障害と知り驚きました。誤解されやすい障害だと思うので、当事者の生きづらさをこのデータから見た気がします。学校が対応できる段階のケースと、各専門機関の入る段階のケースを具体的に知る事ができてよかったです。
- ・不登校のきっかけやその時の子どもたちの気持ちなどの調査結果がとても興味深かった。

- ・教育委員会を始め、学校の管理職や教職員の共通理解など、体制作りはなかなか難しいので、その点の話もゆっくりと聞きたかった。
- ・引き継ぎや連携の重要性を改めて感じました。早期対応することで不登校を防げた事例もあるのではないかと思います。また、友達との関係だけでなく、教師も不登校の原因になるということを考え、配慮する必要があると感じました。学校に登校できるということだけでなく、将来、社会にでた時に必要な力を身につけられるような支援が必要だと感じました。
- ・不登校を事前に防ぐためにも子どもとの対話を大事にしようと思いました。
- ・好きな教科・苦手な教科を本人に分けてもらうアセスメント等も含め、事例の報告もあったので、具体的な支援内容をイメージすることができました。
- ・不登校支援は管理職が中心に取り組むということが多かったが、実際管理職が中心になっている学校はどれくらいあるのかと感じた。管理職に意識を持たせる為に、このような研修を管理職に参加してもらいたいくらいだった。
- ・不登校当事者、経験者の中に多くの発達障害圏の方々がいらっしゃいます。そしてひきこもりにつながっていることもあります。できるだけ早期から継続的な支援があれば、複雑化長期化せずにすむだろうということを自戒を込めて振り返りながら聴講させていただきました。今後も自分にできることを少しずつでも行い、困り感を抱えておられる方々に寄り添っていければと思います。
- ・不登校の児童生徒への対応で、本人の心のエネルギーが溜まるまで見守るといったことがよく言われますが、予防や早期対応が重要なことを今回学ぶことができてよかったです。
- ・担当クラスの発達障害を持つ児童は学校が好きな様子の子が多いので、今後とも困っている事を相談できる、安心して学習できる環境作りに努めていきたいと思いました。
- ・保護者の方が精一杯のことをしてくれていると常に意識し、関係作りに取り組んでいきたいです。(他 2名)
- ・支援の方向性を再確認できた。学校全体へ考えを共有していきたい。
- ・家庭、教育、地域、行政が一体とならないと根本的な解決にはならない問題であること、また教育カリキュラム自体を見直さなければならない時期にきているのではないかと考えさせられました。
- ・自分のすべきこと、学校、地域の一員としてできることが、よくわかった。
- ・家族とのコミュニケーションの改善についてのお話がわかりやすかった。引きこもり支援で同様の話を聞いたことがあり、同じ対応になるのが印象的だった。
- ・環境作り、個別の実態把握を行い、その子自信の不安やニーズを知った上で、対応を考えていく必要があることがよくわかりました。
- ・クラス全体のユニバーサルな支援については、支援学級の担任だけではなく、通常級の先生方の理解も深めて行かないといけないと感じました。

(注 アンケート結果のうち、自由記述式のアンケートは同意見を集約修正した)